

成人看護学実習(急性期)		看護学科		3年前期		
		3単位	必修	実習	135時間	
[教員]: 大澤 伸治・棚橋 千弥子・安藤 洋子・柴田 由美子						
[関連する資格・履修制限等]: 教務規程第21条による制限有り						
授業内容	急性期及び回復期にある対象とその家族の特徴を理解し、対象に応じた看護を展開する基礎的能力を養う。周手術期にある対象の身体的・精神的・社会的側面を理解し、生命の保護、苦痛の緩和、不安の軽減、回復の促進をさせるための能力を身につける。					
授業方法	少人数のグループとなって学外の各医療機関において実習を行う。学生1～2名につき周手術期にある対象1人を受け持つ。臨地実習指導者ならびに大学教員の指導を受けて行う。					
到達目標	知識・理解	急性期・回復期にある対象及びその家族の特徴を理解できる。			○	
	思考・判断・表現	急性期・回復期にある対象の看護過程を展開できる。			○	
	技能	手術療法を受ける対象に対し、生命を守り、回復を促進するための看護技術を実施できる。			◎	
	関心・意欲・態度	看護チームの一員として自己の役割と責任を明確にすることができる。			◎	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実習記録	15	15	-	-	30
	看護技術	-	-	10	-	10
	患者とのかかわり	-	-	20	10	30
	提出物	-	-	-	10	10
	実習態度	-	-	-	20	20
合計(点)	15	15	30	40	100	
評価の特記事項						
テキスト	『DIGITAL NURSINGRAPHICUS』メディカ出版					
参考書・教材	『人体の構造と機能からみた病態生理ビジュアルマップ』1～5巻 医学書院 『病気が見える』1～7巻 MEDIC MEDIA					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	<p>第1週: 周手術期に行われる特徴的な看護実践を知り、その意味を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 周手術期に関連する手術室及び術後回復室(ICUを含む)を見学し、環境及び看護師の役割を理解する。 2) 学生1～2名で周手術期にある対象1名を受け持ち、看護過程を展開しながら対象の看護について学ぶ。 <p>第2週: 周手術期に行われる特徴的な看護実践を知り、その意味を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 周手術期における対象を理解し、回復過程を促進する看護を考え、適切な援助の提供及び評価・修正を行う。 2) 対象のおかれている状況を総合的に捉え、手術によって変化した日常生活行動への援助を理解する。 <p>第3週: 実習での体験を整理し、他者と共有することで急性期看護についての学びを深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護過程の展開を継続し、自分の実践について評価する。 2) 看護過程について振り返り、カンファレンスにより学びを共有する。 					
時間外での学修	対象の変化が著しい領域であるため、解剖生理学、病態学、周手術期における対象の理解などの事前学習を十分に行う必要があります。					
受講学生へのメッセージ	対象の身体的情報のみに関わることなく精神的・社会的側面にも目を向けてください。机上の知識を実践と結びつけることができるよう積極的に実習に臨んでください。オフィスアワーは、別途連絡します。					

老年看護学実習Ⅱ		看護学科		3年通年		
		2単位	必修	実習	90時間	
[教員]：松原 薫・吉川 美保・水上 和典						
[関連する資格・履修制限等]：教務規程第21条による制限有り						
授業内容	施設で生活する高齢者との関わりを通して老年期の特徴、施設における看護の役割を理解する。高齢者を支える多職種の役割、連携を理解し、高齢者に必要な看護が実践できる基礎的能力を養う。					
授業方法	施設において実習を行う。臨地実習指導者ならびに教員の指導を受けて実習を行う。					
到達目標	知識・理解	高齢者の特徴を統合的に理解し、生活を支える職種の役割について理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	疾患や身体機能・認知症機能の加齢変化の把握とともに、これらが生活に及ぼす影響について考え、必要な看護援助を理解することができる。			◎	
	技能	高齢者の状況や個別性に配慮した日常生活支援技術、コミュニケーション能力が獲得できる			△	
	関心・意欲・態度	人生の先輩である高齢者を尊重し、看護学生として適切な態度や行動がとれる。			◎	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実習記録	20	20	5	-	45
	対象との関わり	10	10	5	-	25
	実習態度	-	-	-	30	30
	合計(点)	30	30	10	30	100
評価の特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学実習評価表に基づき評価する。 ・評価にあたっては臨地実習指導者の意見も参考にする。 ・提出物は指示期限内の提出を必須とする。 					
テキスト	『デジタルナーシング・グラフィカ 老年看護学(1)：高齢者の健康と障害』メディカ出版 『デジタルナーシング・グラフィカ 老年看護学(2)：高齢者看護の実践』メディカ出版					
参考書・教材	日本看護協会『認知症ケアガイドブック』照林社 2016					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	<p>「事前学習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の仕組み、サービスの種類と特徴を復習する。 ・実習施設の役割やそこで働く看護師および他職種の役割について復習する。 <p>「臨地実習」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険施設での実習を通して老年看護援助の実際を知る。 ・高齢者を取り巻く保健医療福祉チームについて学び、連携・協働を理解する。 ・高齢者とのコミュニケーションを通して、言動の意味を考え高齢者を理解する。 ・カンファレンスを通して、実習体験を共有し、学びを深める。 <p>「実習のまとめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習最終日はグループ毎に施設における看護の実際について資料を作成し、プレゼンテーションを行い学びの共有を図る。 <p>「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の実習の振り返りを行う。 ・施設における看護の目的、役割、高齢者の生活上の支援について学んだ内容を整理する。 					
時間外での学修	既習の学習内容を復習、整理して学習に臨んでください。					
受講学生へのメッセージ	健康管理に努め、感染対策の正しい知識を持って実習に臨んでください。主体的・積極的に学び、学生ならではの看護体験をしましょう。 オフィスアワーはI326で毎週水曜日12：00～14：00（吉川）					

在宅看護論実習		看護学科		3年前期			
		2単位	必修	実習	90時間		
[教員]：北村 美恵子・古田 桂子・長谷川 真子							
[関連する資格・履修制限等]：教務規程第21条による制限有り							
授業内容	保健・医療・福祉のケアニーズを持つ人々が、住み慣れた地域でその人らしい暮らしが続けられるようにするために、地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種役割を理解し、看護の役割を發揮するための知識と技術を学ぶ。						
授業方法	訪問看護ステーションでは、看護師の訪問に同行しケアの見学および介助を行う。訪問事例は数事例経験し、そのうち1事例は継続事例（受け持ち事例）とする。継続事例については、カルテや訪問などを通して全体像を理解し、看護問題とケアの根拠についてまとめ、プレゼンテーションを行う。 地域包括支援センターでは、相談・調整・訪問活動の見学、地域ケア会議や介護予防事業に参加する。						
到達目標	知識・理解	1) 在宅看護の特徴について理解できる。 2) 地域包括支援センターの社会的意義と役割について理解できる。 3) 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割について理解できる。			○		
	思考・判断・表現	1) 療養者とその家族のニーズを把握し、行われるケアの意味と根拠を考えることができる。 2) 在宅療養者を介護する家族への支援のあり方について考えることができる。 3) 在宅療養を支える地域の社会資源の役割とその活用意義を考えることができる。 4) 地域包括ケアシステムにおける多機関・多職種との連携の重要性とそのあり方について考えることができる。			◎		
	技能	1) 療養者や家族の自己決定権を尊重する意義を理解し、相手を尊重した態度で接することができる。 2) 訪問におけるマナーを守り、適切な礼節がとれる。			○		
	関心・意欲・態度	実習目的・目標に関する学びを深められるよう主体的に取り組める。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実習記録物		25	40	-	-	65
	実習中の言動		-	-	20	5	25
	カンファレンスでの発言や姿勢		-	-	-	5	5
	自己学習		-	-	-	5	5
合計(点)		25	40	20	15	100	
評価の特記事項	在宅看護論実習評価表に基づいて評価し、臨地実習指導者の意見も参考にします。実習評価を受けるには、提示した期限内に実習記録を提出することが必須です。						
テキスト	『デジタルナースング・グラフィカ 在宅看護論：地域療養を支えるケア』メディカ出版						
参考書・教材	講義資料						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1～10	1日目：学内オリエンテーション 2日目～9日目：訪問看護ステーションにて実習 ※実習3日目～8日目の間で1日は、地域包括支援センターにて実習を行う。 10日目：学内まとめ ※具体的な実習目標や実習内容および方法は、実習要項を参照してください。						
時間外での学修	事前課題については、実習要項に提示してありますので実習開始までに行ってください。介護保険制度の知識は、訪問看護ステーション実習においても地域包括支援センター実習においても必須ですので、しっかりと理解しておきましょう。 訪問看護ステーションで同行訪問する前には、療養者が抱える疾患や施されている医療処置について必ず自己学習を行ってください。自己学習は評価の対象とします。						
受講学生へのメッセージ	病院実習で学んだ知識・技術を最大限に活用し、在宅療養生活を援助する看護について学びを深めてください。また、在宅療養生活の援助を通し、看護の基本について改めて考えられる機会になるとよいです。自宅に訪問させていただくため、病院での実習に比べ緊張が高いと思いますが、笑顔と挨拶を忘れず、看護学生として身だしなみや言葉使いなど良識ある言動がとれるようにしましょう。オフィスアワーは実習前に連絡します。						

小児看護学実習		看護学科		3年前期			
		2単位	必修	実習	90時間		
[教員]： 鯉原 直美・清水 美恵							
[関連する資格・履修制限等]： 教務規程第21条による制限有り							
授業内容	保育園児との関わりを通して、子どもの成長・発達やその特徴を学ぶ。小児病棟では、入院中の子どもの疾患、治療、成長・発達、生活、家族の状態を総合的に理解し、子どもとその家族のニーズを踏まえ、個別性に応じた看護を展開することができる基礎的な能力を養う。						
授業方法	1. 保育園（4日間）：年齢の違う2クラス受け持ち、園児との関わりを通して成長発達段階についての理解を深め、成長発達を促す援助について考察する。 2. 小児病棟（4日間）：学生1～2名で1名の患児を受け持ち、患児とその家族に対し、看護過程を展開する。 3. 学内実習（2日間）：評価面接、記録の整理を行う。						
到達目標	知識・理解	【保育園】 子どもの成長・発達と日常生活援助の方法を理解する。 【小児病棟】 1. 患児の成長・発達を踏まえ、健康障害のある患児とその家族に必要な看護を理解する。 2. 患児とその家族の権利や尊厳を守るための援助方法と看護師の役割を理解する。 3. 検査・処置が患児とその家族に及ぼす影響と看護の役割について考察できる。			◎		
	思考・判断・表現	【保育園】 実習を振り返り、自己の子ども観を述べるができる。 【小児病棟】 実施した看護を振り返り、自己の小児看護観をまとめることができる。			△		
	技能	【保育園】 1. 子どもの言語・認知発達段階に応じた関わりができる。 2. 子どもを取り巻く危険因子を捉え、安全面に配慮し関わりができる。 【小児病棟】 安全・安楽に配慮し、患児の病状や成長・発達に応じた援助を行うことができる。			○		
	関心・意欲・態度	【保育園】 保育園・幼保園で過ごす子どもに関心をもち、子どもを幅広く理解しようと積極的に取り組むことができる。 【小児病棟】 患児とその家族に関心をもち、患児とその家族がよりよい生活を送れるように積極的に取り組むことができる。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	記録用紙（保育園）		15	5	5	5	30
	記録用紙（小児病棟）		35	5	5	10	55
	指導者（小児病棟）		10	-	5	-	15
	合計(点)		60	10	15	15	100
評価の特記事項	小児看護学実習評価表に基づき評価する。評価にあたり、実習指導者の評価および意見を参考にする。						
テキスト	『デジタルナーシング・グラフィカ 31・32・33巻』メディカ出版 授業での配布資料及び必要時提示します。						
参考書・教材	授業での配布資料及び必要時提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
	小児看護学実習要項 参照						
時間外での学修	小児看護学概論、小児看護援助論、小児看護演習、事前学習の内容を十分に復習し、実習に臨んでください。						
受講学生へのメッセージ	子どもとの関わりを通して、各成長発達段階の特徴についての理解を深めましょう。子どもの目線に合わせ、子どもが伝えようとしていることを感じ、受け止め、子どもの人権を尊重した看護実践を学んでください。体調管理をしっかり行いましょう。実習中困ったことは、必ず教員や指導者に相談してください。オフィスアワーは、1号館106・325研究室 金曜日16：30～17：30						

母性看護学実習		看護学科		3年前期		
		2単位	必修	実習	90時間	
[教員]：緒方 京・戸村 佳美						
[関連する資格・履修制限等]：教務規程第21条による制限有り						
授業内容	学内で学んだ知識および技術を基に、臨地での妊産褥婦と新生児の受け持ち事例を通して母性の特性を理解し、対象およびその家族に応じた母性看護の実際が実践できる基礎的能力を習得する。					
授業方法	<ol style="list-style-type: none"> 産科病棟：産婦、褥婦および胎児、新生児を受け持ち、基本的看護援助を指導者とともに実施する。カンファレンスでは受け持ち事例の実践および見学を通じて学びを共有し、実習目標への到達を図る。 保健センター：保健センターでの看護活動を指導者とともに実施および見学する。 学内実習：課題学習、技術演習、記録整理を行う。 					
到達目標	知識・理解	妊産褥婦および胎児、新生児の生理的変化および心理、社会的変化が理解できる。	◎			
	思考・判断・表現	妊産褥婦および胎児、新生児の状態を既存の枠組みを使ってアセスメントし、一連の看護過程の流れを展開できる。観察した項目について正常な状態であるか判断できる。地域における母性看護の役割について考えることができる。地域母子保健システムと社会資源について考えることができる。	◎			
	技能	母性看護特有の看護技術援助を、安全・安楽、プライバシーに配慮しながら実施、見学できる。	○			
	関心・意欲・態度	母性看護における看護職としての役割、姿勢を養うことができる。カンファレンス等は積極的に参加できる。自己の健康管理に努め、心身ともに健康な状態を保持できる。	△			
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	レポート(実習記録)	20	25	-	-	45
	実技(援助の実際)	-	-	25	-	25
	カンファレンス・面接	10	10	-	-	20
	実習に臨む姿勢・態度	-	-	-	10	10
合計(点)	30	35	25	10	100	
評価の特記事項	母性看護学実習評価表に基づき評価する。評価にあたり臨地の実習指導者の意見も参考にする。実習評価を受けるには、指示した期限内のレポート(実習記録)提出を必須とする。					
テキスト	『デジタル ナーシング・グラフィカ 母性看護学(1)：母性看護実践の基本』メディカ出版 『デジタル ナーシング・グラフィカ 母性看護学(2)：母性看護技術』メディカ出版					
参考書・教材	母性看護援助論・母性看護演習の講義配布資料など					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	<p>実習内容と進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 看護過程の展開 産科病棟に入院中の受け持ち産婦・褥婦および新生児を通じて母性看護援助を実施する。 地域における周産期の継続看護と、看護職の役割理解 保健センターにおける母子と支援の実際を見学し、地域における母性看護の必要性を考える。 母性看護技術援助の実施 産褥子宮の観察、悪露の観察とパットの交換、新生児の沐浴、新生児のバイタル測定、新生児の計測 実習のまとめ 実習最終日までに記録の整理と実習のまとめを行う。 カンファレンス <ol style="list-style-type: none"> 基本的には毎日実施し、場所・時間については当日決定する。 カンファレンスのテーマは、実習指導者、担当教員、グループメンバーで話し合い、その都度決定する。 事前学習 <ol style="list-style-type: none"> 指定した課題を行い、実習第1日目に担当教員に提出する。書式は問わない。 課題レポート <ol style="list-style-type: none"> 指定したテーマ、書式に沿って、期日までにレポートを作成し、提出する。 					
時間外での学修	母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護演習で学んだ内容を十分に復習し、母性看護技術は実習前に各自で演習し、技術を確認して実習に臨んでください。					
受講学生へのメッセージ	母親とその家族の人生にとって妊娠・出産、育児は、新しく家族が増える機会であり、身体的変化のみならず、それぞれの役割変化がみられる貴重な体験です。そのような時期の母子に看護学生として関わることを通して、生命誕生の神秘や母性の特徴を考えてみましょう。オフィスアワーは実習学内日の9時～12時小児母性看護実習室。					

精神看護学実習		看護学科		3年通年			
		2単位	必修	実習	90時間		
[教員]：酒井 和美							
[関連する資格・履修制限等]：教務規程第21条による制限有り							
授業内容	既習した知識・技術を活用して、こころを病む人と家族への看護過程を展開して精神科看護の基礎的実践力を習得する。						
授業方法	精神科病棟において対象者との治療的対人関係を形成・発展させ、対象者の看護問題を把握し、立案した看護計画に沿った看護援助をする。						
到達目標	知識・理解	対象の発達段階や課題、健康状態の特徴がアセスメントできる。			◎		
	思考・判断・表現	アセスメントに基づいて個別的な看護計画を立案・実践・評価できる。治療の場で対象と看護師との関係性をもつ治療的関係が捉えられる。			◎		
	技能	対象を取り巻く保健医療福祉チームの役割が理解でき、協働できる。			○		
	関心・意欲・態度	看護専門職業人としての役割を養う。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	臨地実習		20	30	20	15	85
	事前学習課題		15	-	-	-	15
	合計(点)		35	30	20	15	100
評価の特記事項							
テキスト	『デジタルナースング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本』メディカ出版 『デジタルナースング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実際』メディカ出版						
参考書・教材	『精神看護学実習ポケットブック増補版』精神看護出版 『エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図』中央法規						
内容							
実施回	授業内容・目標						
2週間（10日）	精神病院施設において、受け持ち患者を対象として看護過程を実践する。 治療の場で患者 - 看護師の治療的関係を構築する。 対象を取り巻く保健医療福祉チームを理解し、協働できる。						
時間外での学修	既習した精神疾患やその症状、精神科の入院形態、関連法規などについて事前学修を行ってください。 実習中分からないことや疑問に感じた時は適宜質問してください。						
受講学生へのメッセージ	座学を実践で活かすためにも、対象および精神疾患への興味や関心を持ち、意欲的に臨地実習に取り組んでください。 オフィスアワーは事前に予約をしてください。場所はその時指定します。						

救急看護・災害看護		看護学科		3年前期			
		1単位	必修	講義	15時間		
[教員]： 和田 孝							
[関連する資格・履修制限等]： 特になし							
授業内容	救急および災害時の状況特性、看護の役割と必要な看護について理解する。具体的には、救急看護では救急患者のアセスメント、救急疾患の理解と治療処置、心肺蘇生法（一次救命処置）の知識と技術を、講義と実技で教授する。災害看護では、災害と健康障害の特徴および災害医療・災害看護の現状と看護職の役割を理解し、災害支援活動およびトリアージ、応急処置、必要な技術について教授する。また、地域の災害危機管理体制も理解できるように教授する。						
授業方法	救急患者のアセスメント、救急疾患の理解と治療処置については、画像や事例を用いて理解できるように教授する。心肺蘇生法は、講義と実技で修得する。災害看護・災害医療については、画像や過去の事例を用いて理解できるように教授する。災害トリアージについては、机上シミュレーションで学習する。						
到達目標	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 救急医療・救急看護の特性と役割、現状について理解できる。 救急患者に起こりうる急性症状の身体所見と治療処置について理解できる。 災害看護・災害医療の基礎的知識・災害サイクルに応じた看護支援活動を理解できる。 			◎		
	思考・判断・表現	災害トリアージの知識を机上シミュレーションで実践できる。			○		
	技能	救急看護に必要な一次救命処置（BLS）が実施できる。			△		
	関心・意欲・態度	自分が看護師として働く時、患者急変時や災害時にどのような行動を取ればよいのか想像して取り組むことができる。			○		
観点別評価	評価方法	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	定期試験		60	10	-	-	70
	OSCE（客観的臨床能力試験）		-	-	10	10	20
	グループワーク		-	5	-	5	10
		合計(点)	60	15	10	15	100
評価の特記事項							
テキスト	授業ごとの事前配布資料						
参考書・教材	ありません						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	救急医療の現状、救急医療体制、救急看護の特徴と役割について考える [準備・課題] 自分が想像する救急医療・看護について考える(4h)						
2	救急患者の急性期症状と看護ケア（呼吸器系、循環器系、中枢神経系、体温異常） [準備・課題] 呼吸器系、循環器系、中枢神経系の解剖学の復習(4h)						
3	救急患者の急性期症状と看護ケア（消化器系、体液・代謝異常、外傷、熱傷、中毒） [準備・課題] 消化器系の解剖額の復習(4h)						
4	災害の定義、種類、災害医療の特徴（CSCATTT）、災害サイクルに応じた看護支援、災害時に特徴的な病態 [準備・課題] 過去に発生した災害について情報収集(4h)						
5	災害トリアージ机上シミュレーション（グループワーク） [準備・課題] 災害トリアージ、CSCATTTの復習(4h)						
6	災害トリアージ机上シミュレーション（グループワーク） [準備・課題] 災害トリアージ、CSCATTTの復習(4h)						
7	一次救命処置の手順とエビデンス [準備・課題] 一次救命処置の手順内容の予習(4h)						
8	一次救命処置の実際（演習） [準備・課題] 一次救命処置の動画を閲覧しておく(2h)						
時間外での学修	災害机上シミュレーションでは、災害トリアージとCSCATTTを理解していることを前提にグループワークを進めていきます。復習をしてください。						
受講学生へのメッセージ	救急患者は、病棟や施設に関係なく、24時間発生します。すべての看護師は、健康状態が急激に悪化した人を救うための知識や技術を習得しておく必要があります。また、いつ起こるかわからない大規模災害時に病院・施設でどのような行動をとるのか理解しておく必要があるため、グループワークで楽しく学びましょう。オフィスアワーは、講義前後の休み時間に教室で質問等を受付けます。						

終末期看護論		看護学科		3年前期		
		1単位	選択	講義	15時間	
[教員]：棚橋 千弥子						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	終末期の考え方、終末期にある対象者およびその家族に対して、終末期看護のあり方について学ぶ。また、学生自身が「死」について考える機会を設けることによって、終末期を迎えた対象者への具体的なかかわりを考えることができるようになる。					
授業方法	講義を中心にディベート・レポートなどで自己の考えを表現できるようにする。					
到達目標	知識・理解	終末期とは、どのような時期であるかを理解できる。終末期におとずれるであろう様々な苦痛に対して理解、それらに対する援助を考えることができる。			◎	
	思考・判断・表現	その人らしさとは何であるかを理解することができ、それらを考慮した看護を考えることができる。			△	
	関心・意欲・態度	終末期看護に関心を示し、主体的に学修にのぞむことができる。			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	定期試験	60	-	-	-	60
	レポート	10	10	-	-	20
	debate	-	-	-	20	20
	合計(点)	70	10	-	20	100
評価の特記事項						
テキスト	『デジタルナースング・グラフィカ 成人看護学 (6) : 緩和ケア』メディカ出版					
参考書・教材	必要な資料は適宜配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	授業ガイダンス 終末期の捉え方。 [準備]成人看護学概論の終末期の概要を確認しておくこと。(1h)					
2	終末期にある対象者の身体的・心理的特長の理解 終末期にある対象者の意思決定とコミュニケーション技法 [課題]テーマについて復習しておいて下さい。(1h)					
3	スピリチュアルケアの基盤となる考え方を理解できる。 スピリチュアルペインの理解 終末期にある対象者とその家族の援助方法の理解 [課題]テーマについて復習しておいて下さい。(1h)					
4	事例を通して終末期看護を考える(一般病棟における終末期がん患者への看護) [アセスメント・看護上の問題・看護目標] [準備]事例を事前に渡しますので、よく読んで対象者の理解を深めておいて下さい。(1h)					
5	事例を通して終末期看護を考える(一般病棟における終末期がん患者への看護) [アセスメント・看護上の問題・看護目標] [課題]不足している箇所について、追加・修正しておいてください。(2h)					
6	終末期にある対象者に対するチーム医療の必要性と理解 看取りのケア。臨死期のケアについて [準備]チームに属する可能性のある職種について学習しておいて下さい。(0.5h)					
7	debate (安楽死・尊厳死) [準備]語句の意味を明確にしておくこと。 自己の思いを表現できるようにまとめておくこと。(1h)					
8	まとめ [課題]終末期にある対象者の看護における看護師のストレスについて自己の考えをまとめておいて下さい。(2h)					
時間外での学修	毎回の講義を振り返り、考えを深めていってください。					
受講学生へのメッセージ	高齢化社会・医療の進歩にともない終末期患者へのかかわりも変化してきています。自己の問題として捉えることができるようになることを望みます。 オフィスアワー：別途お知らせします。					

病態生理学		看護学科		3年前期			
		1単位	選択	講義	15時間		
[教員]：佐々 敏・曾根 孝仁							
[関連する資格・履修制限等]：特になし							
授業内容	病態生理学とは重要な疾病の成り立ちとその病態整理を理解する学問です。学生諸君が学外実習に入る前に、比較的良好にみられる疾患を整理して実習に臨めるように配慮します。						
授業方法	パワーポイント、参考資料、ホワイトボードを用いて授業を行う。また、動画などの視覚教材なども必要に応じて使用する。看護に必要な知識をより具体的に理解できるように、例をあげながら授業を進める。						
到達目標	知識・理解	看護師に必要な病態生理学を理解する。			◎		
	思考・判断・表現	課題について論理的に考え、適切に説明することができる。			○		
	技能	図や表から病態生理に関連する内容の理解ができる。			△		
	関心・意欲・態度	自分の理解を高めるために、独自のサブノートを作成する。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		60	5	5	-	70
	レポート		-	5	5	10	20
	学習成果の自己評価		-	5	-	5	10
	合計(点)		60	15	10	15	100
評価の特記事項	試験は授業内及び定期テストで行います。欠席は減点とし、3分の1以上欠席した学生には単位を与えません。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1曾根	循環器疾患の病態と治療 I [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)						
2曾根	循環器疾患の病態と治療 II [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)						
3曾根	呼吸器疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)						
4曾根	内分泌疾患の病態と治療 [準備・課題] 次回の授業までに課題テーマをまとめる。(3h)						
5佐々	免疫系疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する(3h)						
6佐々	消化管・消化器疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する(3h)						
7佐々	腎・尿路疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する(3h)						
8佐々	感染症・血液疾患の病態と治療 [準備・課題]学んだ内容を高めるため、独自のサブノートを作成する(3h)						
時間外での学修	予習・復習に努めてください。						
受講学生へのメッセージ	看護学科に入学された諸君は国試をクリアしなければ入学した意味がないと考えてください。私は長年の医療経験を活かして 看護師に重要な疾患を楽しく学べるように努力します。お互いに頑張りましょう。オフィスアワーは佐々研究室、火曜日の16:00~17:00にきてください。						

看護研究		看護学科		3年前期			
		2単位	必修	講義	30時間		
[教員]： 我部山 美・キヨ子・佐々 敏・棚橋 千弥子・服部 直子・馬場 貞子・緒方 京・古田 桂子・松原 薫・安藤 洋子・大澤 伸治・鍛原 直美・酒井 和・柴田 由美子・清水 美恵・野網 淳子・長谷川 真子・吉川 美保							
[関連する資格・履修制限等]： 特になし							
授業内容	臨床の現場で行う看護研究の内容を理解し、学生が臨床で行う看護活動や健康行動などを題材にしてデータ収集から発表までの一連の過程を体験する。本授業により、研究テーマの絞り方、文献検索、研究計画の立案、データ収集、発表資料の作成、発表までの一連の研究過程の流れを体験し理解する。						
授業方法	最初は講義形式で、看護研究の概要、方法論等を学ぶ。次に演習形式で研究テーマの選び方、研究計画の立案、研究データの収集、解析、論文作成を行い、最後にグループの成果物の発表を行う。						
到達目標	知識・理解	聞き手が興味を持つ研究テーマを選択できる。			△		
	思考・判断・表現	研究データを収集し、解析し、可視化して自分の主張を裏付ける客観的資料を作成、論文を作成できる。			◎		
	技能	客観的資料を基に、聞き手が納得する発表資料を作成できる。			△		
	関心・意欲・態度	聞き手が興味を持つ研究テーマのデータを、データの性質に合わせて、自ら収集できる。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	研究テーマの立案		10	-	-	-	10
	文献検索とレビュー		-	15	-	-	15
	データの収集と分析		-	10	10	-	20
	論文作成		-	20	-	10	30
	発表資料の作成		-	15	-	10	25
合計(点)		10	60	10	20	100	
評価の特記事項	グループでの研究論文、発表資料(PC原稿と発表原稿)を各一部作成し、グループの成果物として提出する。						
テキスト	『デジタルナースング・グラフィカ 基礎看護学(4)：看護研究』メディカ出版						
参考書・教材	授業中に提示する。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	看護研究の目的、意義、歴史						
2	看護研究のテーマの絞り方 [準備・課題]自分の興味があるテーマについてレポートにまとめる(2h)						
3	文献検索と文献レビュー [準備・課題]上記テーマについて文献を調べてレポートにまとめる(6h)						
4	研究のデザインと研究計画書 [準備・課題]テーマに合わせた研究方法について調べる(4h)						
5	データ収集と分析						
6	研究成果のまとめ テーマなどに合わせてグループ分け [準備・課題]研究論文の書き方について学修する(2h)						
7	データ分析1(エクセルの使用法) 40人ずつで行う [準備・課題]出題に対してエクセルを用いてレポートを作成する(3h)						
8	効果的なプレゼンテーションのために(パワーポイントの使用法) 40人ずつで行う [準備・課題]出題に対してパワーポイントを用いてレポートを作成する(3h)						
9	グループ演習						
10	グループ演習						
11	グループ演習						
12	グループ演習、論文のまとめ						
13	グループ演習、論文のまとめ						
14	グループ演習、論文のまとめ						
15	研究成果の発表 [準備・課題]研究論文をしあげる(10h)						
時間外での学修	看護実践および健康に関する疑問の中でデータを収集できて、かつ聞き手が興味を持ちそうなテーマを選択してください。 看護実践および健康に関して疑問に思ふ内容、例えば男子学生と女子学生の健康への取り組みの違い、年齢による認識の違いなどを講義までに考えておいてください。						
受講学生へのメッセージ	皆さんが看護ケアを行うときに、ケアの効果を評価し、高めるなど、対象の生活の質を向上させるために役立ちます。看護が必要とするデータや資料をまとめて解析する能力を少しだけ得意にしましょう。オフィスアワーは(精神看護学実習日を除く)15:00~16:00、場所はA-312研究室です。						

総合看護論		看護学科		3年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
[教員]：我部山 キヨ子・佐々 敏・服部 直子・緒方 京・安藤 洋子・大澤 伸治・鉄原 直美・酒井 和美 ・野網 淳子・吉川 美保・北村 美恵子						
[関連する資格・履修制限等]：特になし						
授業内容	専門基礎科目・専門科目・発展科目を振り返り、既習内容を概観するとともに新しい知識や現在の課題について発展的に学びます。全領域の教員がオムニバス形式で担当し、国家試験対策も含めて講義を行います。学生自身が、知識がどの程度身につけているかを確認するとともに、思考を整理し、不足を補う機会となるよう教授します。					
授業方法	講義形式で進める。					
到達目標	知識・理解	各科目・領域で求められる基本的な知識・技術を理解できる。			◎	
	思考・判断・表現	各科目・領域の学習上の要点を整理し、自己の課題を解決できる。			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	80	20	-	-	100
	合計(点)	80	20	-	-	100
評価の特記事項						
テキスト	従来使用している教科書全般					
参考書・教材	講義中に適宜指示する。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	解剖生理学・病態学 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
2	病態学・薬理学 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
3	基礎看護学：看護の基礎となる概念、基礎看護技術 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
4	看護管理、看護倫理、医療安全 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
5	成人看護学①成人期における健康の保持増進、クリティカルケア [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
6	成人看護学②慢性期看護、がん看護、機能障害別看護 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
7	成人看護学③機能障害別看護 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
8	老年看護学：老年看護の特徴、保健医療福祉制度 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
9	在宅看護論：訪問看護の制度、在宅療養者の状態・状況に合わせた看護 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
10	小児看護学①成長・発達と健康増進のための看護 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
11	小児看護学②健康障害のある小児と家族の看護 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
12	母性看護学①ライフサイクル各期における看護、法律・制度 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
13	母性看護学②周産期における看護 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
14	精神看護学：主な精神疾患と看護、法制度 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
15	災害看護・国際看護：災害サイクルと看護、世界の保健、国際協力、異文化看護 [準備・課題]質問事項をまとめておく。講義後は学習内容について整理する。(2h)					
時間外での学修	国家試験に向けての学習を進める中で、不明瞭な点を整理しておく。 各講義終了後には必ずその日のうちに学習内容の復習をする。					
受講学生へのメッセージ	卒業前の最後の科目です。自主的に取り組み、問題解決・弱点克服の場としてください。 オフィスアワーは各担当教員の時間(別途通知)とします。					

看護統合実習		看護学科		3年後期		
		2単位	必修	実習	90時間	
[教員]：馬場 貞子・古田 桂子・松原 薫・安藤 洋子・大澤 伸治						
[関連する資格・履修制限等]：教務規程第21条による制限有り						
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> これまで学んだ知識・技術・態度を統合し、臨床現場での実習を通して看護チームの一員としての役割を理解し、看護実践能力を身につける。 病院組織における看護部の位置づけと役割・責務について理解し、病棟管理の実践を学ぶ。 生涯にわたり看護師としての成長のために必要な要素を学ぶ。 					
授業方法	大垣市民病院および博愛会病院の2施設で実習。					
到達目標	知識・理解	病院組織における看護部の組織機能、管理の実際について理解する。			◎	
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 複数の対症の多様なニーズに対して、優先順位と時間間に配慮しながら看護援助の計画を立案できる。 実習を振り返り、チーム医療の中で看護の果たす役割と求められる連携のあり方について考えを述べることができる。 目指す看護師像と自己の成長を支えるために必要なことが述べられる。 			○	
	技能	複数の対症の多様なニーズに対して、チームメンバーと協働して看護援助を実践できる。			◎	
	関心・意欲・態度	対象を尊重し守秘義務の厳守、主体的な実習の取り組みかぎできる。			○	
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実習記録	30	20	-	-	50
	看護実践	-	-	30	-	30
	カンファレンス参加状況	-	-	-	10	10
	実習態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	30	20	30	20	100
評価の特記事項						
テキスト	『デジタルナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践(1)：看護管理』メディカ出版					
参考書・教材	『系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理』医学書院 看護管理および受け持ち患者への援助に関連するもので、これまでの講義・演習・実習で使用した教科書、参考書、配布資料、その他必要な文献					
内容						
実施回	授業内容・目標					
	1. 実習時期 実習期間 2週間 2. 実習内容 1) 病院実習 <ul style="list-style-type: none"> 病院および病棟における看護管理の実際の説明を受け、病棟における管理の実際を見学する。 看護チームに参加し、病棟の看護活動および看護の継続性について見学する。 受け持ち患者2名の優先順位を考慮した援助を実施する。 2) 学内実習 <ul style="list-style-type: none"> 実習初日：看護管理に関する基礎的知識取得のため、課題学習をグループで実施、発表し共有する。 実習施設ごとに事前準備と学習 実習最終日：グループ・カンファレンスおよび事前学修課題の更なる学びを発表し共有する。 					
時間外での学修	看護を組織・管理の視点から学習することで、テキストや参考書を読んで理解を深めてください。複数の患者に援助を実施します。既習の看護過程の展開を十分復習し、事前に技術練習を行ってください。					
受講学生へのメッセージ	本実習は3年間の学びの総括です。これまで学修を振り返り、主体的に自ら責任を持って行動することを期待します。質問や相談等がある場合は、早めに担当教員に報告・連絡・相談してください。					